

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第8章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

小羊が第七の封印を解いたとき、(最後の封印です) 天に半時間ばかり静けさがあった。(黙示録 8:1)
それから私は、神の御前に立つ七人の御使いを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。(黙示録 8:2)
また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。
彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。(黙示録 8:3)
香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。(黙示録 8:4)
それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。(黙示録 8:5)

パワフルですね。

7つ目の封印が解かれると、半時間の聖なる静寂が起こりました。

祭壇に捧げられた全ての聖徒の祈りが香の煙と混ぜられた、つまり、キリストの執り成しによって清められた私たちの祈りが、御座におられる神に捧げられ、神がその祈りを聞かれた時、天の全ては水を打ったように静まり返りました。

そして、御使いはそれらの祈りを取り、祭壇の火でそれを満たしてから地に投げつけました。

それはこの地に大きな打撃を与え、

すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。(黙示録 8:5)

今、7つの封印が開かれました。

この7つ目の封印は、7つのラッパを引き出します。

これについては、2節と6節にはっきりと書かれています。

すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。(黙示録 8:6)

封印は、初めは明らかに、人間の罪のゆえにこの地球が崩壊していく結果でした。

でも、ラッパは全く別の問題で、昔の西部劇のようなイメージでしょうか。

トラブル発生！絶体絶命の場面。そこへ突然、パッパラパッパッパ〜！！

ラッパの音が聞こえてくる。

「やったー！彼がやって来た!! 助けが来たー！」

それが、この7つのラッパが意味するところです。

ここでは、神がもっと直接的に、もっとパワフルに関わってきます。

これまでの6つの封印による問題や戦いによって状況は厳しさを増し、最後の7つ目の封印が7つのラッパを引き出し、それぞれのラッパは神の裁きを引き出すのです。

今、ラッパが吹き鳴らそうとされています。

聖書を学んでいる皆さん、考えて下さい。

いつも言っていますが、ヨハネがこれを書いている人たちは何を思っていたでしょう。AD96年にヨハネがこの手紙を宛てた人たちの事です。

彼らは旧約聖書を学んでいたのです。

新約聖書が書かれたのは、それからずっと後のことで、新約聖書は今の私たちのようには手元になかったのです。

けれども彼らには、旧約聖書の知識がありました。

だから、パウロがイエス・キリストについて説教する時も旧約聖書を用いました。

彼らは当然旧約聖書を知っていて、7つのラッパと聞くと、すぐさまエリコの物語を思い浮かべたのです。

新約聖書の各々の支柱は、全て旧約聖書に書かれています。

私が思うに、ヨシュア記は、黙示録の描写です。

ヨシュア記、是非ノートを取って、全体を見て下さい。

更に理解が深まるでしょう。

私は今でもヨシュア記を読むたびに感動します。

ヨシュアという名前はイエス、イエシュア、ヨシュア、全て同じ意味の名前です。

ギリシャ語でイエホシュア。

イエスがナザレで過ごしていた時は、イエスではなくイエシュアと呼ばれました。

それがヘブル語の彼の名前だから。

旧約聖書のヨシュアはイエスのことで、彼がイスラエルの民を導き、敵と戦って、その土地にいるべきではない者たちを追い出し、それを取り戻しました。

ヨシュア記はまさに、イエスが黙示録でしようとしている事なのです。

創世記 15 章で神がアブラハムに伝えたのは、約束の地には 10 の国が存在するという事でした。

10 か国。

預言を学ぶ人ならこれは基本。

ダニエル書 7 章の、獣から出ている 10 本の角、つまり終わりの時に興る 10 の国。

もしくは、ダニエル書 2 章の、ネブカデネザル王の像の 10 本の指。

10 か国。旧ローマ帝国。

これについては、また別のところでお話しします。

約束の地には、いるべきではない 10 の国が存在していました。(創世記 15 章)

なぜ彼らがそこにいたかというと、神の民は 400 年間エジプトにいたからです。

今、ヨシュアが神の民と共に戻って来て、敵を追い出し、絶滅させ、約束の地を統治しようとしています。

これは、ヨシュアと共に戻って来るという描写。

と言っても天国のことではありません。

天国には戦いはないから。

これは大患難時代の描写で、黙示録 6 章から 19 章の、敵が裁かれ、追い出されて、千年王国の準備が整えられる様子です。

ヨシュアが人々を導き入れた時、約束の地にいた敵の数は 7 か国でした。

ヨシュア記 3 章 10 節辺りに 7 か国と書いてあります。

ヒビ人、カナン人、ギルガシ人 etc、etc…7 か国。

しかし、創世記 15 章では 10 か国でした。

それが、ヨシュアが入る頃には 7 か国になっていたのです。

3 か国は、そこにいた他の国々によって滅ぼされていました。

書き留めて、後で確認してください。

つまり、ダニエル書 7 章の、獣から出た 10 本の角は、主の再臨の時の 10 か国を表しています。

私とその角を注意して見ていると、その間から、もう一本の小さな角が出て来たが、(ダニエル書 7:8)

この一本の小さい角について調べると、それは、反キリスト。

その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。(ダニエル書 7:8)

10 本の角があり、反キリストが登場して 3 本の角を破壊すると、残るのは 7 本の角！

まさに元々 10 か国だったのが、ヨシュア記 3 章で、ヨシュアが入る頃には 7 か国になっていました。

これが将来、反キリストによって起こる事、そのままなのです。

終わりの時、10 か国が手を組み、今現在、既にそれが始まっていますが、反キリストが権力を握ると、彼は 3 か国を引き抜き 7 か国が残る。

ヨシュア記 3 章と同じように。

すごいですね。

しかもこれは一般的なヨシュアではなくて、彼はまさしくヨシュア、イエスなのです。

どうして分かるかと言うと、ヨシュア記 5 章で、実際にはイエスが約束の地へ導いているのが見えるでしょう。

ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。

「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」(ヨシュア記 5:13)

すると、この剣を持った男は短く答えます。「いや。」

「あなたは、私たちの味方ですか。それとも敵なのですか?」「いや。」

「いや、とはどういう意味ですか?」

「わたしが敵か味方かは、問題ではない。」

すると彼は言った。

「いや、わたしは主の軍の将として、今、来たのだ。」(ヨシュア記 5:14)

彼はヤハウエ軍のリーダーで、「CHRISTOPHENY」と呼ばれ、イエスの事です。

そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。

「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」(ヨシュア記 5:14)

ここです。

御使いは、礼拝されることを受け入れますか。

これが御使いだとして、実際これまでに、自分たちが礼拝されるのを受け入れた御使いがいますか。いません。

あっ、一人いました。火の池に落とされましたが。

自分を礼拝させようとして天から追放された、御使いのかしら、ルシファー。

しかし黙示録で、ヨハネがひれ伏して御使いを拝もうとしたら、「立ちなさい!私を拝んではいけません。」

だから、これは御使いではありません。

では、礼拝を受けるのは誰でしょう。

すると、主の軍の将はヨシュアに言った。

「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」

そこで、ヨシュアはそうにした。(ヨシュア記 5:15)

これは主です。

「はきものを脱げ。」とは、主が燃える柴の中からモーセに言われたのと同じ言葉です。

すごいですね。

これはイエスが、どのようにしてエリコを勝ち取るかを指導したのです。

決して落ちることのない堅固な町、それがどうなったか、何が起こったか、ヨシュア記を読みながらよく

見ていて下さい。

10 か国のうち 3 つは、終わりの時に反キリストが行うのと同じように滅ぼされていたので、ヨシュアの時、そこには 7 つの国がありました。

そこでヨシュアは、エリコを偵察して、異邦人の女を救うために、2 人の斥候を送りましたね。

黙示録 11 章では、2 人の証人が救いのために送り出されます。

“救うために”です。

2 人の斥候、2 人の証人。

何か気づきませんか。

ヨシュアの時代には、2 人の斥候が、異邦人の女とその家族を救うために送り込まれました。

黙示録 11 章の 2 人の証人と同じように。

そしてイエスは、「これから、わたしの言う通りに行ないなさい。」と言いました。

「あなたがこれから行うことについて、指揮官たちや兵士たちは理解に苦しみ、不思議に思うでしょう。わたしはこれからあなた方に、驚くことを行なわせます。」

「契約の箱を担いで町を回りなさい。」

“契約の箱”!?

「レビ族が。」

“レビ族”!?

それまではトーラー（律法）に従って、契約の箱は戦場に持ち込まれたことはなく、レビ族が戦場に赴くこともなかったのです。

ここでイエスは律法を超えて、それだけではなく、町の回りを 1 日に 1 回、完全に黙ったままで行進させます。

黙示録 8 章では、ラッパが鳴る前に静けさがありました。静寂。

天に半時間ばかり静けさがあった。(黙示録 8:1)

ヨシュアたちは、町の回りを 7 日目の安息日にも行進しました。

安息日には働くことも旅もしてはならなかったのに。

これは、新しい契約、新約聖書の真理です。

「7 周行進し、7 周目に角笛（ラッパ）の音が鳴ったら、ときの声を上げなさい。

その時、エリコの城壁は崩れ落ちる。」

黙示録では、7 つ目のラッパが吹かれると何が起こりますか。

第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。

(黙示録 11:15)

御使いが 7 つ目のラッパを吹いた時、大きな声、“ときの声”が起こりました。

「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」(黙示録 11:15)

それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、

(黙示録 11:16)

言った。「万物の支配者、今いまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。(黙示録 11:17)

諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。」(黙示録 11:18)

7つ目のラッパが吹かれると、ドカン！この世の王国は崩れ落ちます。

まさにヨシュア記 6 章、それまで行なわれてきた静寂の 7 周の後、角笛が鳴ると、ときの声が上がり城壁が崩れ落ちましたね。

おっと言い忘れてました。戻って下さい。もう一つ驚いた事があるのです。

ヨシュア記で、彼らが町を回る前にやった事、彼らが初めて約束の地に入って最初に行なった事は『印』すなわち、ギルガルで男たちに割礼を施しました。

何よりもまず、神のしもべたちに印が押されたのです！

割礼は印、封印です！

証印として、割礼というしるしを受けたのです。(ローマ 4:11)

割礼が、黙示録に出てくる印と同じだと知っていましたか。

黙示録 7 章では、ラッパが吹かれる前に、神のしもべたちの額に印が押されました。

ヨシュアの時代に割礼という印が押されたように。

もっと深く見ていけば、黙示録全体が分かってきます。

イエスが来て 7 つの国を打ち倒す。3 つの国は既に倒されていました。

ダニエル書 7 章にも同じように書かれています。

2 人の証人、2 人の斥候が女を、キリストの花嫁と家族を救うために送られ、男たちに印が与えられました。

黙示録 7 章で印が押されたのと同じです。

町の周りを黙って行進した後、7 つの角笛が吹かれました。

黙示録 8 章でも静寂の後、7 つのラッパが吹き鳴らされます。

角笛が吹かれると、この征服不可能な、負け知らずの王国エリコが崩壊しました。

黙示録 11 章に書かれているのと同じです。

更にこの次に起こる事に、私は驚愕しました。

エリコが陥落すると何が起こりましたか。

その土地のある集団がこう言うのです。「うわぁ～～。彼らの神は本物だ！」

それはギブオン人。

ヨシュア記 9 章。

それでギブオン人は「イスラエルの民と平和条約を結ぼう！」

「我々はヨシュアの神、イスラエルの神を信じる！」

繕った古いはきものを足にはき、古びた着物を身に着けた。

彼らの食料のパンは、みなかわいて、ぼろぼろになっていた。(ヨシュア記 9:5)

こうして、彼らはギルガルの陣営のヨシュアのところに来て、彼とイスラエルの人々に言った。「私たちは遠い国からまいりました。ですから、今、私たちと盟約を結んでください。」(ヨシュア記 9:6)

本当は、すぐ近くに住んでいたのですが。

ヨシュアが彼らと和を講じ、彼らを生かしてやるとの盟約を結んだ(ヨシュア記 9:15)

彼らと盟約を結んで後三日たったとき、人々は、彼らが近くの者たちで、自分たちの中に住んでいるということを聞いた。(ヨシュア記 9:16)

ヨシュアはギブオン人に何と言いましたか。

「あなた方を生かしておこう。しかし、

あなたがたはのろわれ、あなたがたはいつまでも奴隷となり、私の神の家のために、たきぎを割る者、水を汲む者となる。」(ヨシュア記 9:23)

それで大患難時代に、人々は目が覚めてコーヒーの香りをかぐ時に言うのです。

「ああ!! あれは本当だったんだ! あなたを信じます！」

彼らは救われるでしょう。

しかし奴隷となる。たきぎを割る者、水を汲む者となる。

黙示録に書いてある通りです。

そして次のヨシュア記 10 章。

ギブオン人が助かった時、アドニ・ツェデクという名の王は大いに恐れました。

彼の名前の意味に注目して下さい。『義の主』

しかし、彼は違いました。

彼は邪悪で、反キリストの描写です。

彼がギブオン人を恐れたのは、彼らがイスラエル側に付き、神を信じているからです。

そこでアドニ・ツェデクは、周りの王たちを招集して「我々は上って行って、ギブオン人を攻め、絶滅させよう。」

反キリストは何をしますか。

彼も、獣の印を受けなかった人々、神を信じる人たちに対して戦いを宣言します。

『義の主』という偉大な名のアドニ・ツェデクは、ニセモノの『義の主』で、彼とその取り巻きたちは戦いを仕掛けます。

しかし、この時代の戦争や患難の中でイスラエルの神を信じ、生まれ変わったギブオン人を守るためにヨシュアが登場します。

そして、ヨシュアとイスラエルの民が、アドニ・ツェデクとその軍と戦った時、驚くことが起こりました。

主は天から彼らの上に大きな石を降らし(ヨシュア記 10:11)

雹の石で死んだ者のほうが多かった。(ヨシュア記 10:11)

何か気づきませんか。

ラッパが吹き鳴らされた時に起こる事を見ると、雹が降り、キリストに敵対した人々を打つのです。
雹が降る！

更に驚くことが続きます。

アドニ・ツェデクとその軍が敗北を悟って逃げ始めると、アヤロンの谷でヨシュアが言いました。

「日よ。ギブオンの上で動くな。」(ヨシュア記 10:12)

イエスは、大患難時代の兆候として何と言いましたか。

日と月と星には、前兆が現れ (ルカ 21:25)

ヨシュアはまさにその通りの事を行ない、

「日よ。ギブオンの上で動くな。月よ。アヤロンの谷で。」(ヨシュア記 10:12)

民がその敵に復讐するまで、日は動かず、月はとどまった。(ヨシュア記 10:13)

黙示録と同じです。

雹が天から降り、太陽と月にしるしが現れました。

患難です。

これらの王たちは、命からがらどこへ逃げて行きますか。

これらの五人の王たちは逃げて、マケダのほら穴に隠れた。(ヨシュア記 10:16)

黙示録 6章の王たちがするのと全く同じです。

ほら穴と山の岩間に隠れ (黙示録 6:15)

同様に、かつては偉大なる王だったアドニ・ツェデクたちは、ほら穴に隠れたのです。

話はいくらでも出てきますが、今日はこれで終わりにします。

ヨシュア記を是非最後まで読んで下さい。

そうすれば、黙示録が生き生きと浮かび上がってきて、終わりの時に何が起こるかよく見えてくるでしょう。

ちょっと長くなりましたが、祈りましょう。

父よ。私たちが、御言葉をもっと理解できるように助けて下さい。

御言葉の本意について、またこの先どうなるのかを。

そのことによって、愛する兄弟姉妹が心を動かされるように。

そして、真実を伝えることができますように。

伝えた相手が、たとえ今は受け入れなくても、主よ、私たちをお使い下さい。

聞かれずとも語り始めた長老たちのように、私たちが伝えた人たちが大患難時代に救われ、その人数が数えきれないほどになることを私たちが知り、種蒔きができますように。

真実が伝えられますように。

イエス様、ありがとうございます。

私たちには、本当に、主が全てのことを働かせて益として下さるという希望があります。
世はますます暗くなり混乱に陥る中で、御言葉を見ると、全てが主の来られることを示していると分かり、私たちの心に光が差し、喜びで満たされます。
主よ、この終わりの時、私たちに大胆さと知恵とをお与え下さい。
そして主よ、あなたのために私たちを最大限にお使い下さい。
イエスの御名によって。
アーメン。

つづく

私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。
あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。
万軍の神、主よ。
私にはあなたの名がつけられているからです。(エレミヤ書 15:16)